



地域おこしグループ
〈沓尾学校〉校長

はまし まさのり
濱島 正憲さん

地域の遺産で 歩く博物館作りを目指す

5年前、定年退職と同時に行橋市沓尾地区の区長になった濱島さんは生粋の沓尾っ子。漁業で活気のあった子どもの頃のように、「再び地区が活気づくような、皆で力を合わせることが何かできないか」と思ったことがきっかけです。

そこで、行橋市歴史資料館と連携しながら、地域の魅力を再発見していく活動を始めました。調査を重ねるうちに、沓尾地区には予想以上に歴史的に重要な

文化財が点在していることに気づきます。これを活用するため、平成30年(2018)歴史資料館特別展「行橋の明治150年展」を機に地元のメンバー約20名が集まり、地域おこしグループ【沓尾学校】を立ち上げます。大坂城の石垣の石を採石した石丁場、守田養洲旧居、姥ヶ懐、松山神社の大鳥居や大灯籠、鯨塚など石の遺跡が多いことから、皆でコンセプトを「石の博物館」に決め、濱島さんをリーダーとした活動が始まります。「夏は長井浜のビーチで楽しみ、冬は養島で牡蠣を味わい、春と秋には沓尾の「石の博物館」と、四季折々の行橋の海岸線を楽しんでほしい」と語ります。

グループでは文化財の学習をしながら土日のみ、「石の博物館」のガイドも行っています。所要時間は1時間ほど。ガイド希望、お問い合わせは行橋市歴史資料館(0930-25-3133)、詳細は行橋市ホームページ(守田養洲旧居)に掲載されています。

(レポーター/いちじく)

話題
のお店
Crape Shop
メノマール
Keichiku
Gourmet
MenoMale



店名の「メノマール」は、「あ〜良かった!」という意味のイタリア語とか。「苅田に行けば、こんなお店もあるんだ」と思って頂きたい、甘いものが苦手な方にも立ち寄って頂きたいと、スイーツ系だけではなくお惣菜系のクレープも含めてその数は何と38種類!ボリューム満点のクレープは300円からとリーズナブル。幅広い年齢層に愛されるお店です。(レポーター/ノウサギ)

Shop Information
【住】苅田町京町1丁目15-13
【☎】093-777-7974 【休】火曜
【営】(月・水・木)11:00~18:00
(金・土・日)11:00~20:00
※コロナ対策期間中のみ



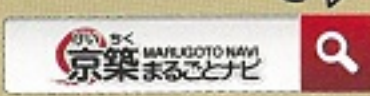
編集後記

私は、北九州に住んでおり、京築の町のことがまだまだ分かりませんが、豊のくにけいちくを通して自分の知らない京築を発見していくことが楽しいです、会報誌を見て「ここに行ってみよう!」と思う場所がたくさんあったので自分自身も学びながら皆さんに京築の魅力を発信していきたいです!

(レポーター/モアナ)

京築応援団便り
豊のくにけいちく
「京築応援団」団員募集中!(入会無料)

京築を応援するファンクラブに入ませんか?
お申し込みは「京築まるごとナビ」から



発行: 京築連帯アムニティ都市圏推進会議 事務局(福岡県広域地域振興課内)
企画編集: 京築応援団会報編集委員会、豊の国海幸山幸ネット
問い合わせ: 福岡県広域地域振興課 / 〒812-8577 福岡市博多区東公園7番7号
TEL.092-643-3178 / FAX.092-643-3164 / E-mail: koiki@pref.fukuoka.lg.jp



京築ってなに



京築難問クイズ



〔問1〕
元号「昭和」の創案者は
吉田増蔵(吉田)ですが
近代「製麻業」の創始者
(増蔵の兄)といえは
だれか?



〔問2〕
日本初「源氏物語」の
英訳をした明治の
政治家はだれか?



〔問3〕
与下原バス停
にある謎の壁は
なんの跡?



〔問4〕
メタセの杜の芝生
広場に展示された
飛行機の愛称は
なんなんだ?



〔問5〕
毎年秋に行われる
「合河ゆず祭り」に登場
するキャラクターの
名前はなんなんだ?



〔問6〕
上毛町の特産品で
冬になると黄色く
色づく果物は
なんなんだ?



〔問7〕
4年に1度の神相撲
1対11での押し合い
相撲に勝利した神様
はだれか?

問1: 吉田 増蔵(吉田) 問2: 源氏物語 問3: 与下原バス停 問4: メタセの杜 問5: 合河ゆず祭り 問6: 上毛町の特産品 問7: 4年に1度の神相撲

豊のくにけいちく

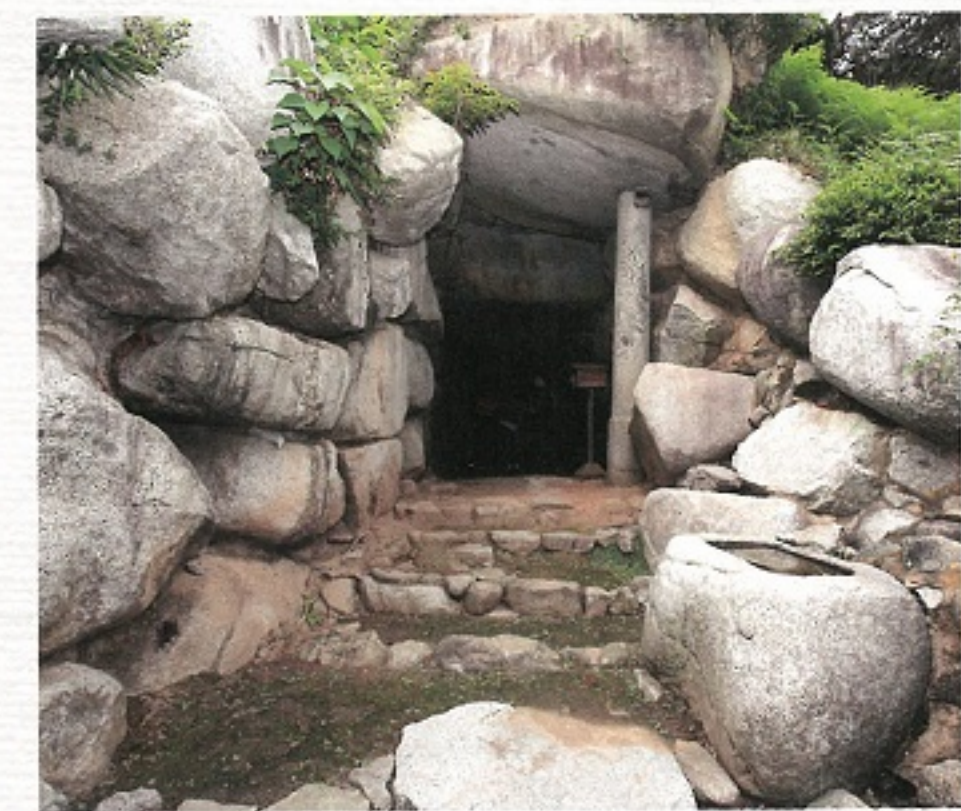
Toyonokuni Keichiku 2021 October

©IZUMI HARAGA



コロナ禍2年目の秋となりました。本来、実りの秋ともなれば、京築の神社ではあちこちで奉納神楽が舞われる季節です。各自自治体でワクチン接種が進行中ですが、今年も密を避けるために祭りや神楽は自粛中。そこで、今回も京築の秋のホットスポットや美味しいものをご紹介します。秋の分散歩を楽しみながら、コロナ禍を乗り切りましょう!

分散歩のススメ②



▲綾塚古墳



▲橋塚古墳



▲彦徳甲塚古墳

見つけよう 京築の秋

みやこ町

ぐるっと古墳めぐり

コロナ禍で騒がしい今こそ心の平穏を取り戻し、少しでも身体と脳に刺激を与えてみませんか。それらを満たしてくれるスゴイ古墳がみやこ町にあります。車ですぐ側まで寄せることができます。見学時間はお気に召すまま、もちろん無料です。

●豊津地区
かぶとつかほうふん
①甲塚方墳
けんとくかぶとつか
②彦徳甲塚古墳

●勝山地区
あやつか
③綾塚古墳
たちばなつか
④橋塚古墳
しょうやつか
⑤庄屋塚古墳

①③④は立ったままで石室内に入れます。
*③では玄室内の石棺を観る事ができます。
*懐中電灯があれば便利です。
②は古墳の上まで登れます。
⑤は古墳の上を散歩できます。

(レポーター/とらババ)

其れ剣は心なり。心正しからざれば、剣又正しからず。すべからく剣を学ばんと欲する者は、まず心より学べ

島田虎之助は江戸時代後期の剣客です。文化12年(1815)中津藩の下級武士の子として生まれ、初めは漢学を学びます。父の死後、剣の道に生きる決心を固く誓い、昼は中津の剣術指南役である堀「刀斎」の道場、夜は天仲寺山に毎晩登り、一人剣法の修練に精進しました。18歳の時、九州各地の道場を巡る武者修行を行い、その名を轟かせていました。しかし、鍋島藩や柳川藩の道場での勝負によって、自分の未熟さを悟った虎之助は、筑前の仙居和尚のもとに参禅し心の修養に励みます。中津に帰った後も虎之助は、心の修養と剣の修行に励み、天仲寺山で修練を積んだといわれています。23歳の時、江戸へとこのぼり男谷信友の道場

に入り剣の修行に励み、江戸浅草の新堀に直心影流の道場を開きました。この時の門下生の人々が、幕末から明治の政治家である勝海舟です。虎之助は、剣術だけでなく、漢学の知識に加えて蘭学や西洋式軍事教訓にも造詣が深く、門下生にも学問の大切さを説いており、このことが勝海舟に大きな感化を及ぼしたと伝えられています。また、虎之助は剣術の目標を「剣心一致」とし、精神の統一を強調しており、剣の才能は素晴らしい、幕末の剣聖と呼ばれました。



●所在地 吉富町大字広津633番地外



応援団ひろば

京築神楽LINEスタンプデザインを募集しています!

京築連帯アメニティ都市圏推進会議では京築神楽LINEスタンプのデザインを募集中です。みなさんがLINEのトーク画面で「使いたい!」と思うスタンプをデザインしてご応募ください。



投票で選ばれたスタンプはLINEストアで販売されます。応募方法など詳しくは、京築まるごとナビでご確認ください。

「京築神楽LINEスタンプデザイン募集」で検索

●問い合わせ先
京築連帯アメニティ都市圏推進会議事務局(福岡県広域地域振興課内)
[☎] 092-643-3178



(レポーター/木実原)

菊田町

とかくし 等覚寺は 旅するちょうちょのお休み処

「等覚寺かあちゃんず」とその仲間たちが育てた、秋の七草のひとつであるフジバカマが見ごろを迎えます。そのフジバカマの蜜を求めてアサギマダラが等覚寺に毎秋飛来して来ます。フジバカマにはピロリジジン・アルカロイドという毒物があり、この毒物はアサギマダラの雄が雌を呼び込むための性フェロモンを分泌させます。旅する蝶「アサギマダラ」は、毒性の植物を吸蜜することで体を毒化し、鳥などの捕食から逃れ、秋には南に移動します。等覚寺でアサギマダラの舞いと自然を満喫しましょう。

(レポーター/木実原)

吉富町

アンドカフェおすすめの焼き菓子 “カヌレ”



吉富駅前にあるチャレンジショップの最初の入居・卒業店舗である「アンドカフェ」! 現在は吉富町内に店舗を構え、地元の方はもちろん、県外のファンも足しげく通うほど人気カフェです。中でもおすすめの“カヌレ”は外はカリカリ、中はもちもちで香ばしいカラメル匂いが老若男女に人気な焼き菓子です。フランスの伝統焼き菓子で、「満のついた」という意味で焼き型に縦に溝が入っていることからその名が付けられました。ぜひカヌレを食べにアンドカフェへお越しください。

(レポーター/ケイトウボーイ)

[問] アンドカフェ [☎] 0979-31-0374 [住] 吉富町大字小犬丸58-1

行橋市

老若男女、地域とのふれあい 100キロウォーク



行橋市神田町の正八幡宮前をスタートし、海岸線を南に進み、大分県中津～宇佐～日出を通り、別府市までの100キロの道のりを徒歩で挑む行橋～別府100キロウォークは、平成11年(1999)に始まり4500人を超える応募があるスポーツイベントです。制限時間は26時間以内で、小学4年生(保護者同伴)から高齢の方まで参加できます。また、沿道の応援や、エイドステーションでの補給食の振舞いなど、地域の方々やボランティアとのふれあいも多くある、ウォーキングならではのハートフルなイベントです。昨年度に続き、今年度も新型コロナの影響で中止を余儀なくされましたが、来年度は開催されることを祈って、今からウォーキングを始めてみませんか。

(レポーター/若草物語)

豊前市

五感満喫!! 豊前棚田ゆず

過疎化の歯止めに始まった取組みの一つ、見晴らしの良い棚田の休耕田で育った「豊前棚田ゆず」は香り高く、酸味、苦みもほど良く、中でも豊前ブランドの「ゆずペースト」は菓子や加工品に使われ、「道の駅豊前おこしかけ」で販売されています。ゆずソフトも人気スイーツの一つです。地域の活性化のために

(レポーター/ヒメジャガ)

行われている「合河ゆず祭り」。そこで販売されるゆずは安いと評判で、10キロ入りの袋を求めるお客様も多いそうです。澄んだ秋空の下、ゆず狩りや神楽で豊前の秋を楽しみましょう。

* ゆずの販売をしています。

[問] 岩屋活性化センター [住] 豊前市大河内301-3 [☎] 0979-88-2002



上毛町

古から今へ繋ぐ献上柿 川底柿

上毛町大平地区の「川底柿」は、江戸時代から栽培されている幻の渋柿です。4本の縦溝があり、種も少なく非常に高い糖度を持っているのが特徴で、干し柿やおし柿に最適です。天日干しにより旨みと甘みを凝縮して作られた干し柿は、古くは小倉藩主細川忠興公に献上されたという記録もあるほどの名産品です。400年の歴史を今に伝える古の味をお召し上がりください。また、富有柿や太秋柿など甘柿の栽培も盛んで10月中旬頃から直売所に並びます。

(レポーター/リトルミイ)

[問] 上毛町役場 産業振興課

[☎] 0979-72-3151



築上町

たしろ 他城のイロハモミジ

牧の原「物産館 まこちの里」を過ぎ、鉾立峠へは登らずに、城井川の支流、他城川沿に林道を歩いていくと「三丁弓の岩」、「城井ノ上城址」と宇都宮氏ゆかりの場所が現れます。その奥を進むと橋の手前にポツンと一本立っているのが「他城のイロハモミジ」です。例年11月初旬に行われている「もみじウォーク」の頃11時～14時の時間がおすす

(レポーター/mulberry)

め。暗い谷の中に太陽の光を浴びた紅葉の見事なグラデーションの美しさに心癒されることでしょう。

[問] 築上町観光協会 [☎] 0930-31-0306

ふるさと瓦版

求^く菩^ぼ提^て山の
鬼伝説

豊前市

コロナ禍二年目の秋となりました。疫病退散を願う舞といえは、神楽ですが、なかなか神楽も舞えない日々が続いています。豊前神楽の代表的な演目は「駈仙」。天津神であるアメノウズメが地上に天孫降臨する途中、国津神であるサルタヒコと出会い、激しく戦う場面を現していると言われています。

しかし不思議な事に、駈仙神楽では、アメノウズメは踊りの上手な女性の姿ではなく「幣方」と呼ばれる神主姿。一方のサルタヒコは鬼面を着け「死還杖」と呼ばれる鬼杖を持っています。

求菩提資料館館長の栗焼憲児さんは、「駈仙神楽は、人々に不幸をもたらす災い＝鬼から里人を守る山伏の力を表現している」と話されます。では、山伏たちが住んでいた求菩提山には、どんな鬼が住んでいたのでしょうか。鬼の姿を二つの民話の中から探っていきたいと思います。

は



▲鬼の石段



▲鬼神社



「鬼の石段」

むかし犬ヶ岳の山にお、鬼たちがすんじょったち。鬼はいつも里におりちゃあ、畑を荒らしたり、牛馬をかすめたり、女や子どもをさらったりしてのお、昼間は働かず夜になると悪さばかりしておったち。

困った村人たちは、どうか鬼どもを退治してください、求菩提山を治める権現様に訴えた。乱暴者の鬼たちに住み慣れた山から立ち去れといっても素直には聞かぬ。そこで権現様は一計を案じ、鬼たちを呼び集めると「鬼たちよ。わしの住む社を求菩提の山頂に作らねばならぬ。そのためには、まず千段の石段を築いてもらいたい。一夜のうちに築くことができたなら、今まで通り、お前たちの暮らしは認めてやろう。じゃが、夜明けまでにできなかったら、直ちにこの山から出てゆけ」っち言うたそう。

鬼たちは、山や谷から石を集め石段を積み上げると、夜も明ける頃には、八百五十段も積み上がってしもうたち。これを見ていた権現様はたまがったのお、手に持ったちよったタコンバチ(竹の皮の笠)を叩いて「コケッコー」と一番鶏の鳴き声をまねると、里の鶏たちも一斉に鳴きはじめたち。「なんと、朝になってしもうたー」、鬼たちは山からいなくなり、平和な村になったち。求菩提山には、鬼が積んだ八百五十段の石段が今ものこちよるち。

「鬼の木」



この手紙を読んだ鬼は、お、岩岳川の中にズブズブと入り、あつという間に怪力でどんどん大きな淵を掘り上げていった。

鬼の怪力にたまがった村人たちは、夜の求菩提山を駆け上がり、権現様に泣きついた。話を聞いた権現様は村人たちと一緒に里へ下り、持ってきたタコンバチを叩きながら「コケコッコ」と一番鶏の鳴き真似をした。するとのお、村中の鶏たちもいっせいに鳴き始めた。



▲鬼の木

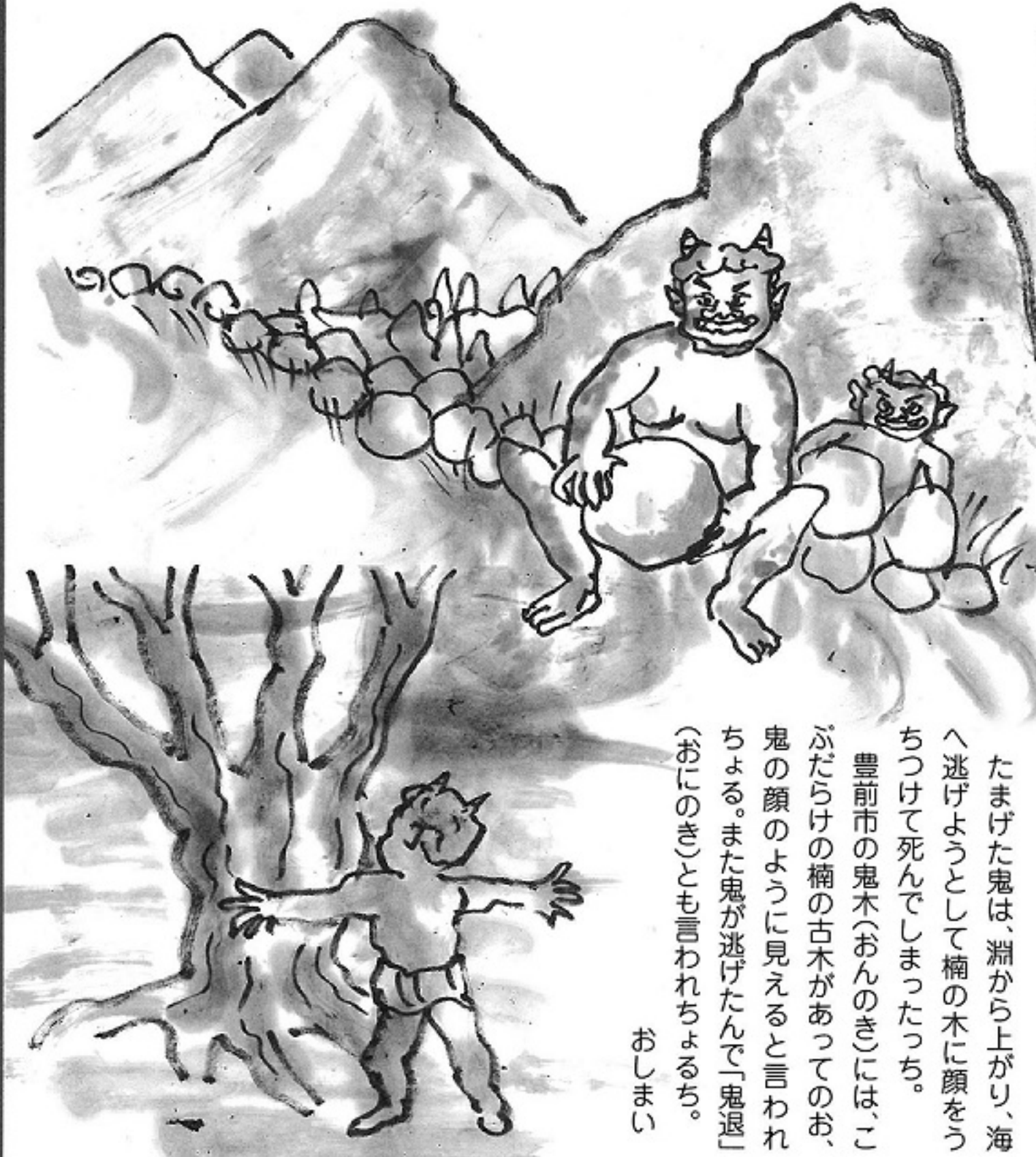
たまげた鬼は、淵から上がり、海へ逃げようとして楠の木に顔をうちつけて死んでしまった。

豊前市の鬼木（おんのき）には、こぶだらけの楠の古木があつて、鬼の顔のように見えると言われちよる。また鬼が逃げたんで「鬼退」（おにのき）とも言われちよる。

おしまい

むかし、犬ヶ岳に鬼がすんじよつてのお、里におりてきちゃあ、食べ物を奪う、牛馬をかすめとるなど、悪さをして村人たちの困らせておつた。ところが、その年は日照り続きで、お、村の食べ物も乏しくなり、鬼は人間を食べるちよい出した。

このままじゃあ鬼に食われてしまふち思つた村人たちは、お、手紙を書き、村はずれの楠の木に貼り付けた。



求菩提山と麓の鬼木に残る二つの民話には、乱暴者が少しドジで悲しい鬼たちとその鬼の悪さに苦しむ村人と、タコンバチで一番鶏の鳴き真似をして問題解決を図るユニークで知略に富んだ権現様が登場します。

この二つの民話の他にも、八屋の海岸には鬼の腿と手を埋めたという「百手浜」、隣接する築上町には鬼の首を埋めたという「鬼塚」などの地名と同様のストーリー構成の民話が語り継がれています。同じく修験道の山である英彦山にも鬼伝説があり、タコンバチを持った英彦山権現様が登場します。

求菩提山の鬼伝説は、修験道の山を開いた猛覚魔下仙が、犬ヶ岳の八鬼を退治して壘に封じ、八鬼の霊を「鬼神社」に祀った事に由来するといわれています。

ト仙に退治された鬼とは、どんな文化を持つ人たちだったのでしょうか。豊の国と呼ばれた豊かな土地を、鬼たちから譲り受けた私たちの先祖は、いくつもの天災や疫病、戦、人間関係、乗り越えていかねばならない問題に立ち向かってきました。そして常に鬼の存在を忘れず、恐れつつ敬いながら生きてきた歴史が「鬼神社」や民話に込められているような気がします。

そして鬼を思う心は、山伏神楽として受け継がれ、昨今は里神楽の中の狐仙神楽演目として息づいています。戦っていた鬼と仲良くなり、肩を組む「ヤボヤボ」の形で舞いあがる理想の姿として鬼たちは再生しているのです。

地球上がコロナ禍というパンデミックの中で、私たちの平穏な暮らしの影に潜む鬼と向き合う覚悟として、再び狐仙神楽の舞が見られる日を心待ちにしながら、「求菩提鬼伝説」を味わってみてください。

●参考文献 「ものがたり京楽」京楽民話の会（葦書房）

「豊前の民話」豊前語りへの会、豊前市芸術文化振興協会編